

公共下水道事業は、管路の整備を推進しながら一関、花泉、千厩地域の供用区域を拡大し、快適な生活環境の向上に努めます。また、下水道未接続世帯への普及啓発を図りながら、合併処理浄化槽の整備を進め、水洗化を促進するなど、これら都市基盤施設の維持管理にも努めます。

●雇用対策

雇用する側、雇用される側、それを支援する側、それぞれへの支援が必要です。昨年、新規高卒者の就職率が100%を達成しました。引き続き「ジョブカフェ一関」などの関係機関と連携し、若者の地元への就職と職場定着に取り組みます。

震災の復旧・復興への対応や支援に係る事業を中心とした「緊急雇用創出事業」を実施して、雇用の場の確保と地域で働く人材の育成を支援します。工業団地のリース制度や立地企業の設備投資に対する助成措置などにより、積極的な誘致活動を展開します。操業開始時の新規採用者の人材育成を支援するフオローアップに努め、ものづくり人材の集積を図ります。



新入社員基礎力向上セミナー

●環境対策への取り組み

住宅用太陽光発電システム、太陽熱利用機器、高効率給湯器の設置を支援し、地球温暖化対策への取り組みを促進します。公共施設への太陽光発電システムの導入、防犯灯・道路照明灯・商店街街路灯などのLED化を進め、新エネルギー・省エネルギーの取り組みを推進します。

さらに、市民が主体的に取り組み景観まちづくり活動への支援を行います。

●世界遺産を意識した地域づくり

平泉の玄関口として、引き続き情報を発信します。骨寺村荘園遺跡の世界遺産拡張登録に向け、骨寺村荘園遺跡指導委員会の指導助言を踏まえ、骨寺堂跡の確認調査と梅木田遺跡の全面調査などを実施します。

4月に展示棟がオープンする骨寺村荘園交流館を中心に、骨寺村荘園の価値と魅力を発信し、都市と農村



4月オープン骨寺村荘園交流館展示棟

分野別の主な施策

●農業の振興

米、畜産、園芸作物など、当地方の多彩な農産物は、全国に誇れる品質の高さが魅力です。生産体制の強化と担い手の育成を図りながら、農産物の高付加価値化と販路拡大による6次産業化を進めるなど、所得向上に向けた取り組みで農業、農村の振興に努めます。

一関産が全国に通用するブランドになるよう「地産外商」にも取り組むなど、本市の物産や観光資源のブランド力を高めて全国に売り込みます。併せて、首都圏の消費者ニーズを的確に捉えた情報発信と販路拡大を進め、一関ブランドの拡大に努めます。

●観光の振興

一関地方の豊かな自然、歴史や文化は、私たち市民の誇りであり、何ものにも代え難い貴重な観光資源です。歴史と伝統ある「餅文化」は、24年度に「中東北ご当地もちサミット」を開催し、若い世代を含む多くの人々にその魅力を再認識してもらおうことができました。25年度も各種PRイベントなどを通じ、全国に情報発信します。

また、「一関・平泉バルーンフェスティバル」も継続して開催します。

●人材の育成

地域の発展には、▼産業を支え、地域をリードする人材▼新たな文化を創造し、次代を担っていく人材▼を、このまちに育てることが必要です。

の交流を二層推進します。

さらに、平泉ナンバーの実現に向けた運動を強力に進め、これに先立ち、原動機付自転車などのオリジナルナンバープレートの交付を行います。

市政運営の基本

各分野の施策は、「一関市総合計画後期基本計画」に基づき着実に推進していきます。施策の展開に当たっては、市民の皆さんの積極的な市政への参加をいただきながら、中東北の拠点都市形成に向けたまちづくりに取り組めます。

本市の財政状況は、少子高齢化の進行や人口減少などにより、厳しさを増していくと見込まれます。財政の健全化を図り、持続可能な行財政基盤を確立するため、知恵と工夫を結集して、思い切った体質改善を図ります。また、市民ニーズや行政課題に的確に対応できるよう、25年度に組織機構を見直し、第2次行政改革大綱と集中改革プランに基づいた行政改革に継続して取り組みます。

藤沢町と合併して1年半。共にまちづくりに取り組んできました。今後も、藤沢地域がこれまで築いてきた歴史や地域づくりの資源を大切に、それを市全体の資源に結集しながら新たなまちづくりに取り組みます。

さらに、「両磐圏域全体の生活機能の確保に向け、「定住自立圏構想」の策定に着手するとともに、産業経済や教育文化の交流連携など圏域を

一関の未来を担う子供たちの勤労観や職業観を養いながら、社会人としての基礎を身に付けられるよう、キャリア教育に取り組めます。

学校施設の整備は、東山地域統合小学校と磐井中学校の整備を進めるほか、山目小学校、東山中学校の校舎改築や藤沢中学校屋内運動場の耐震補強工事などを進めます。

社会教育施設は、一関、花泉両図書館を整備し読書環境の充実を図るほか、永井公民館の改築を進めます。

●保健・福祉・医療の充実

全ての市民が、健康で心豊かに自立した生活を送るためには、保健・福祉・医療の連携と強化が重要です。市民の自主的な健康づくりや健全な食生活のあり方について意識の啓発を図ります。

26年度のオープンを目指し、健康づくりの拠点「一関保健センター」の建設に着工します。

地域医療は、医師修学資金貸付事業を継続するほか、地域医療・介護連携推進事業を実施します。市民フオロムなどで医療機関の適切な受診のあり方をPRしながら医師の負担軽減を図り、医療機関、市民、行政、それぞれの役割や連携を強化し、地域医療体制の充実を図ります。

国民健康保険は、税率等の改正で円滑な保険給付に必要な税収の確保を図るとともに、特定健康診査や特定保健指導の推進、各種制度の周知を図るなど、健全な運営に努めます。障がいのある人たちには、相談支



地域を元気にするいちのせき元気な地域づくり事業

越えた広域行政の推進に取り組めます。

私は、市民皆さんの声を市政に反映させるために、現場での視点が大切だと認識しており、市長就任以来、移動市長室などを通じて、地域の皆さんとの対話を深めてきました。

宮沢賢治は「雨ニモ負ケズ」の中で「東ニ病氣ノコドモアレバ行ツテ看病シテヤリ」「西ニツカレタ母アレバ行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ」と、東西南北の全てに「行つて」行動を起こすことを謳っています。現場主義、現地主義の大切さを教えてくれているものと受け止めています。

引き続き現場主義と現地主義を念頭に置いて、現場から市政を見ることを心掛けます。

援事業所の増設やサービス等利用計画の作成などを支援し、きめ細やかな相談支援体制の充実を図ります。

●協働によるまちづくり

まちの輝き、地域の魅力を増すために市民主体の地域づくりと市民と行政の協働によるまちづくりが欠かせません。地域の特色を生かした活動ができるよう、地域協働体強化推進事業に取り組み、地域づくり活動の主体となる地域協働体の強化を図ります。

地域住民と行政が創意工夫しながら地域を元気にするいちのせき元気な地域づくり事業を実施するほか、地域おこし事業などにより地域コミュニティの活性化を図るなど、「協働推進アクションプラン」の着実な実施に努めます。

4月オープンの「なのはなプラザ」の積極的な利用を促進し、市民活動を支援します。



一関・平泉バルーンフェスティバル

おわりに

国際リニアコライダーの実現は、私にとつて20年来の念願です。世界中の研究者の英知を集め、人類の夢を実現する国際プロジェクトで、日本が学術研究分野で国際貢献できる数少ないプロジェクトでもあります。

国内建設候補地は、今夏、決定します。私は、世界に一つだけの実験研究施設を東北に、一関に実現させたいと強く願っています。

しかし、それは、一関市だけで成し得るものではありません。県境を越えた周辺自治体と連携し、広域的な受け入れ環境を整えなければなりません。現在進めている「中東北の拠点都市一関」を目指す取り組みを、より具体的なものにして、中東北を「世界の人々から親しみをもたれる地域」に、「世界の人々から信頼される地域」にしていくことが必要だと考えています。東北が置かれてきた歴史を一変させる強い信念を持ち、全身全霊でこのプロジェクトの実現に取り組みます。

市民が、真の豊かさを実感できる地域社会を形成するために、希望を持って邁進することが、今、最も重要です。新しい夢を持つことを忘れず、また、その夢を実現するために腰を据え、市政運営に最善を尽くす覚悟です。

議員各位ならびに市民の皆さまのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。